

価値創造を支える基盤

# 環境 への取り組み



京阪グループでは、環境にやさしい企業グループを目指すための考え方である「環境理念」を制定するとともに、「京阪グループCSR委員会」のもとに「環境マネジメント専門委員会」を設置し、グループ全体で環境経営を推進しています。環境問題の最も大きな課題のひとつである地球温暖化防止に向けた取り組みを中心に、環境負荷低減に配慮し、持続的に発展できる社会の実現に貢献していきます。



## 環境理念

2002年に京阪グループ環境理念を制定し、グループ全体で環境改善や環境法令の遵守を推進しています。

### 環境理念

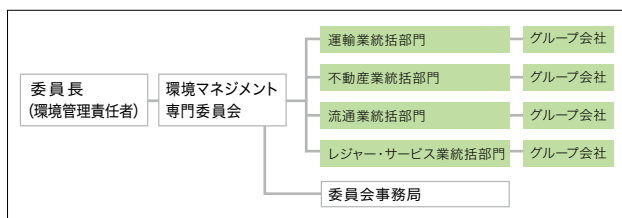
京阪グループは、「地球環境の保全は人類共通の重要課題の一つである」との認識のもと、環境の保全や資源の保護に配慮し、自然環境にやさしい企業運営を目指すことで、持続的に発展できる社会の実現に貢献します。

## 京阪グループの環境マネジメント

### ▶ 環境マネジメント専門委員会

2005年に「環境マネジメント専門委員会」を設置し、京阪グループ全体の環境経営を推進しています。委員会では各社の環境マネジメントシステム構築のフォローアップ、各社の情報の共有化や取り組み状況の評価を行い、改善に努めているほか、環境法令の遵守徹底のため、法令改正情報の周知や環境監査の定期実施による法令遵守状況の確認と改善支援にも注力しています。

京阪グループの環境マネジメント体制図



### ▶ 環境マネジメントシステム構築の推進

ISO14001やKESなどの環境マネジメントシステムの認証取得を推進するほか、京阪グループ独自の環境マネジメントシステム(基本タイプ)を定め、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めています。京阪グループEMS

認証タイプ: ISO14001、KES(特定非営利活動法人KES環境機構による)などの環境マネジメントシステム要求事項に適合したシステムで、外部審査機構による審査登録を行います。

基本タイプ: ISO14001の基本要素を抽出したシステムです。

### 環境マネジメント認証の取得状況

ISO14001		KES	
年月	会社/事業所	年月	会社/事業所
2000年 9月	ひらかたパーク	2005年9月	京都センチュリーホテル
2001年 3月	寝屋川車両基地	2006年5月	京福電気鉄道株
2002年 8月	琵琶湖ホテル	2009年1月	京都タワー
2004年 3月	京阪電気鉄道(株)全社 (全社で認証を受けたのは鉄道業界初)		

## ▶京阪ホールディングス(株)と京阪電気鉄道(株)の環境マネジメント

京阪グループでは、P.46に記載のとおり、グループ全体で環境マネジメントに取り組んでいますが、ここでは、当社とエネルギー使用量の大きい京阪電気鉄道(株)の環境マネジメント(京阪EMS)についてご説明します。

### 環境方針

京阪グループの環境理念に基づき、鉄道事業を基幹としたさまざまな事業活動から生じる環境への影響に配慮・対応していくことを社会的責務と認識し、2003年より環境方針を定めています。特に重点実施項目として、①鉄道騒音・振動の低減 ②鉄道電力の削減 ③環境配慮設計の推進 ④公共交通利用促進の4点を掲げ、事業活動に取り組んでいます。

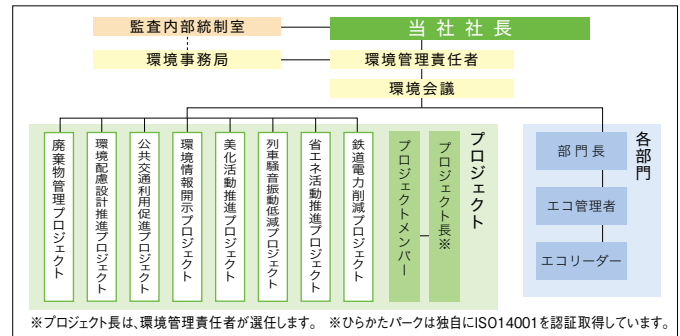
### ISO14001に基づく運用

2004年に会社全体で「ISO14001」を認証取得しました。当社と京阪電気鉄道(株)の環境マネジメントシステム(京阪EMS)は、ISO14001の要求事項に適合した環境管理規程で定められており、当社社長のもとに環境管理責任者を設置し、各部門長から構成される環境会議を開催することで全体の統括を行っています。

また、環境管理責任者は、複数の部門で横断的に取り組むべき事項についてはプロジェクトを設置し、環境負荷低減の取り組みを推進しています。

※2016年の持株会社体制移行に伴い、当社と京阪電気鉄道(株)の合同運用に見直しました。

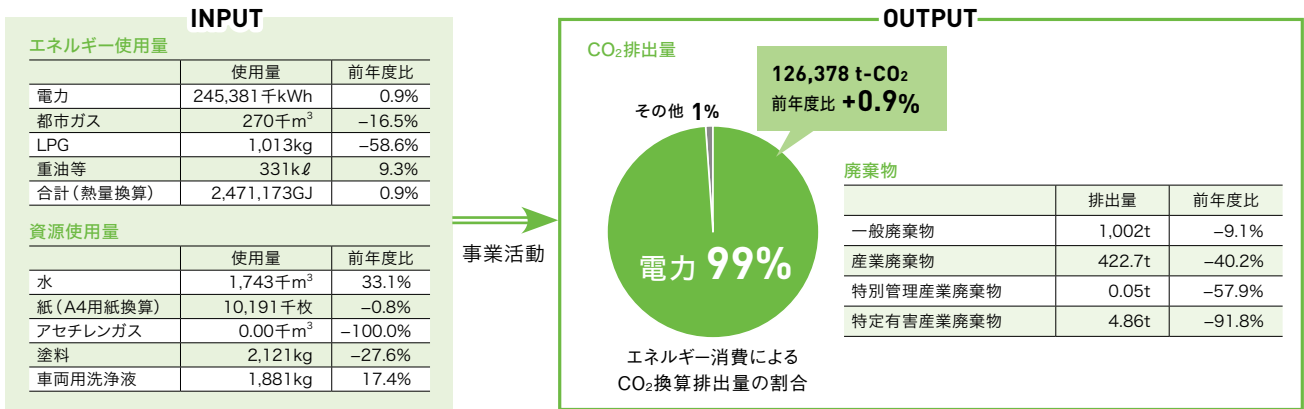
環境マネジメント体制図(2018年7月現在)



### 環境関連データ(2017年度)

#### ●事業活動に伴う環境負荷(マテリアルバランス)

事業活動における環境への負荷を『インプット(エネルギーや資源の投入量)』と『アウトプット(二酸化炭素と廃棄物排出量)』を定量的に把握し、環境負荷低減活動につなげています。



#### ●環境会計

環境会計とは事業活動における環境保全のためのコストと、その活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的に測定し伝達する仕組みです。

#### 環境保全コスト

(単位:千円)

分類	主な取り組み内容	2016年度		2017年度	
		投資	費用	投資	費用
(1)事業エリア内コスト		427,432	407,492	489,476	401,801
①公害防止コスト	ロングレール化、PCまくらぎ化等	251,293	33,697	296,515	32,564
②地球環境保全コスト	空調冷媒代替フロン化、省エネルギー型空調設備等	102,349	33,282	141,024	18,775
③資源循環コスト	廃棄物処理・処分、PCB廃棄物処理等	73,790	340,513	51,937	350,462
(2)上・下流コスト	グリーン購入費	0	2,892	0	3,085
(3)管理活動コスト	測定・計量、「CORPORATE REPORT 2017」発行等	0	16,501	0	16,698
(4)社会活動コスト	植林用事業資材活用、事業敷地外緑地の充実・整備	0	4,193	0	8,838
	合計	427,432	431,078	489,476	430,422

#### 環境効率性指標

	2016年度	2017年度
全社-CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )/売上高(百万円)	2.16	2.45
鉄道電力消費量(千kWh)/鉄軌道収入(百万円)	4.16	4.18

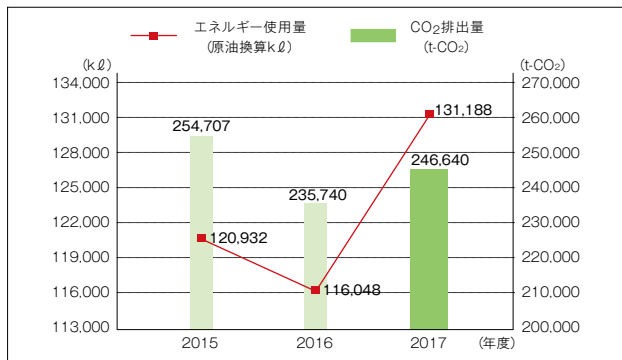
# 地球温暖化防止への貢献

2015年に国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)において「パリ協定」が採択されるなど、近年、地球温暖化問題はますます重要な環境課題としてクローズアップされています。京阪グループでは、京阪電気鉄道株における鉄道電力の削減を中心に、省エネルギー化やCO<sub>2</sub>削減に向けたさまざまな活動に積極的に取り組み、地球温暖化防止に貢献していきます。

## ▶京阪グループの環境負荷

京阪グループでは、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」(省エネ法)に基づき、特定事業者の指定を受けたグループ会社を中心に、エネルギー使用量等を把握、環境負荷低減活動につなげていきます。

エネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移



※省エネ法に基づく特定事業者9社を対象に集計。2017年度からは鉄道・バス・船舶会社など9社を集計対象に追加。

グループ全体のエネルギー使用に係る原単位の対前年度比(目標:対前年▲1%)

年度	2015	2016	2017
対前年度比	▲2.9%	▲0.0%	0.3%

※省エネ法に基づく特定事業者9社を対象に集計。

(特定事業者)

京阪電気鉄道株、京阪バス株、京阪建物株、(株)京阪流通システムズ、(株)京阪百貨店、(株)京阪ザ・ストア、(株)京阪レストラン、(株)ホテル京阪、京阪ホテルズ&リゾート株

(集計対象追加会社)

叡山電鉄株、京福電気鉄道株、京都京阪バス株、京阪京都交通株、江若交通株、京都バス株、琵琶湖汽船株、大阪水上バス株、京阪ホールディングス株

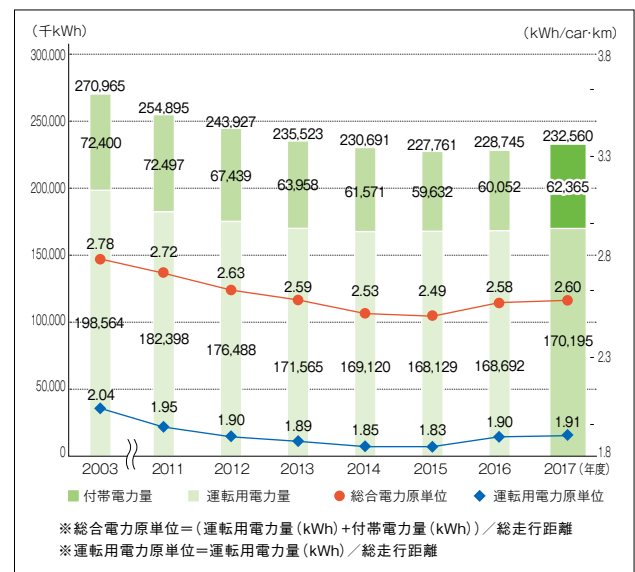
## ▶京阪電車 鉄道電力削減プロジェクト

地球温暖化防止は環境活動の最も大きな課題のひとつであり、CO<sub>2</sub>排出削減は大きなテーマです。鉄道は他の交通機関と比べて、エネルギー効率のよい乗り物とされていますが、鉄道の運行には大きな電力が必要であり、この電力を発電する過程でCO<sub>2</sub>が発生するため、間接的にCO<sub>2</sub>を発生させていることになります。

京阪電気鉄道株は、この認識のもと、「鉄道電力削減プロジェクト」(P.47参照)を2003年に設置し、お客さまの利便性向上のためのサービス拡充や路線延伸などによって電力が増加するなか、省エネ車両の導入や鉄道設備のLED化の推進などさまざまな取り組みにより省エネルギー化を促進しています。

その結果、同社の鉄道電力の推移は右のグラフのとおりとなり、2017年度の鉄道電力は、プロジェクトがスタートした2003年度との比較で約14%減少しています。今後も、お客さまの利便性との両立を図りながら、鉄道電力の削減に努めてまいります。

鉄道電力の推移



※総合電力原単位=(運転用電力量(kWh)+付帯電力量(kWh))/総走行距離

※運転用電力原単位=運転用電力量(kWh)/総走行距離

## ▶路面電車を利用した低炭素型集配システム

京福電気鉄道株は、ヤマト運輸株と共同で、京都市嵐山周辺のCO<sub>2</sub>削減をテーマに、路面電車(嵐電)を活用した宅急便の輸送を行っています。

西院車庫で宅急便の入った台車を積み込み、貸切の嵐電で輸送、途中の停車駅で台車を降ろし、セールスドライバーがリヤカー付き電動自転車で配達するというもので、地域の環境保全や渋滞緩和につながっています。

環境負荷低減への貢献が評価され、両社は2014年に「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞しています。



荷物の積み込み



## ▶バス会社における環境負荷低減の取り組み

環境負荷低減の取り組みとして、京阪グループのバス各社では、自動アイドリングストップ装置付き車両やハイブリッド車両などの低公害車両の積極的な導入やエコドライブの推進による燃費の改善、燃料使用量の抑制に努めています。また、環境マネジメントシステムを通じて①アイドリングストップを含むエコドライブ活動の強化、②新排出ガス規制適合車両への代替、③冷暖房の適温設定・照明の適正使用やLED化による電力消費量の削減などの取り組みを行っています。



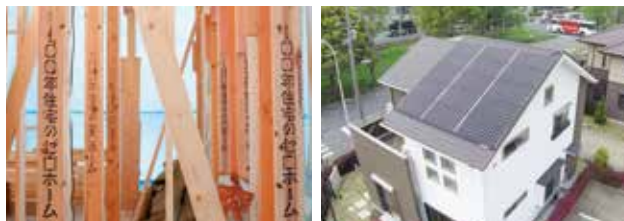
ハイブリッド車両(京都バス)

## ▶ゼロホームにおける取り組み

㈱ゼロ・コーポレーションでは、一般家庭のエネルギー消費削減に寄与する「ZEH<sup>\*</sup>」の普及に努めており、2020年までに新築着工のZEH普及率を50%にすることを目指しています。

また、同社は建築する全物件に国産材を使用。国産の木材を使用することで、国内の森林における植林と伐採のサイクルの継続に寄与し、山の荒廃を防ぐエコ活動に貢献しています。

\*ZEH…Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略称。住まいの断熱性・省エネ性能を上げ、太陽光発電などでエネルギーを創ることにより、年間の一次消費エネルギー量の収支をプラスマイナス「ゼロ」にする住宅



## ▶船舶の環境負荷低減に向けた取り組み

琵琶湖汽船㈱が運航する「megumi」は、造波抵抗の軽減による低燃費化のほか、バイオディーゼル燃料対応機関や太陽光・風力発電システムの搭載など、環境に配慮した観光船です。2016年11月には、一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク主催の第2回「買うエコ大賞」で滋賀県知事賞を受賞しています。



megumi

## ▶環境・社会配慮型施設の建設

2016年に開業した内陸型物流施設「京阪淀ロジスティクスヤード」は、「環境・社会への配慮がなされた不動産」を評価する認証制度である「DBJ Green Building認証」において、「極めて優れた『環境・社会への配慮』がなされたビル」として4つ星を取得しています。同施設は、屋上に約180万kWh/年(一般家庭480世帯分)の発電量を持つ太陽光パネルを、建物南側には緑地帯を配し、館内照明にはLED照明を採用しているほか、災害時の防災拠点としても活用可能にしている点などが評価されています。

また、京阪アセットマネジメント㈱が運営するオフィスビル「インテージ秋葉原ビル」、「京阪堂島ビル」でも、防災対策や屋上庭園の緑化、省エネ啓蒙活動などの実施が評価され、2つ星を取得しています。



京阪淀ロジスティクスヤード

### 「THE THOUSAND KYOTO」における環境・社会配慮に向けた取り組み

2019年1月開業に向け、現在建設中のホテル「THE THOUSAND KYOTO」では、建物に京都の美しい山々の風景を表現した緑化を行うほか、環境や地域への配慮・貢献の観点から、太陽光発電や井水活用などにより省CO<sub>2</sub>と地域の防災拠点としての機能も整備する予定です。



## ▶お子さま向け環境啓発イベントの開催

2018年8月、「京エコロジーセンター」(京都市)において、イベント「電車のエコを知ろう!クイズde京阪&制服で『ハイチーズ』」を開催しました。小学生のお子さまをメインターゲットに、京阪電車と京阪グループの地球温暖化防止に向けた取り組みをクイズ形式で紹介し、楽しみながら京阪グループの活動に対する理解を深めていただきました。

